



# 第二中学校だより

「明るい挨拶 光る汗 きれいな学校 きれいな心」

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

## 埼玉県学力・学習状況調査結果

校長 伊藤 進

夏季休業中は、部活動に熱心に取り組んだり、家族で行楽地へ出かけたりするなど楽しかった思い出がたくさんあると思います。休み中の貴重な経験を今日からの学校生活に生かし充実した第2学期になることを期待します。

4月に実施した埼玉県学力・学習状況調査の結果がわかりました。調査はペーパーテストとアンケートによるものです。本校の学力調査結果は次のとおりです。

○学力調査の正答率（県平均値、本校平均値）

1年生	国語	数学	英語
県平均	55.2	58.1	
本校平均	58.2	58.2	

2年生	国語	数学	英語
県平均	55.6	51.0	65.4
本校平均	58.0	48.3	72.0

3年生	国語	数学	英語
県平均	61.7	59.1	58.5
本校平均	65.5	64.7	63.9

埼玉県教育委員会では、学力・学習状況調査の結果を分析し**学力**と**非認知能力**、**学習方略**に因果関係があることがわかりました。**つまり非認知能力や学習方略が高まれば学力が高い傾向にあります。**非認知能力、学習方略について説明します。

### 非認知能力とは

テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の4種類に分類しています。

- ①自制心…自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力（例）イライラしていても人に八つ当たりしないなど
- ②自己効力感…自分はそれが実行できるという期待や自信（例）難しい問題でも自分ならでき

ると考えられるなど

③勤勉性…やるべきことをきちんとやる力（例）宿題が出されたらきちんと終わらせるなど

④やりぬく力…自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力（例）失敗を乗り越えられるなど

### 学習方略とは

子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動。本調査では6種類に分類しています。

①柔軟的方略…自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動（例）勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習するなど

②プランニング方略…計画的に学習に取り組む活動（例）勉強を始める前に計画を立てるなど

③作業方略…ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動（例）大切なところを繰り返し書くなど

④人的リソース方略…友人を利用して学習を進める活動（例）友達に勉強のやり方や分からないところを聞くなど

※分析結果では「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。

⑤認知的方略…より自分の理解度を深めるような学習活動（例）勉強した内容を自分の言葉で理解するなど

⑥努力調整方略…「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動（例）分からないところも諦めずに継続して学習するなど

学校では、今後も学力向上を目指し「非認知能力」や「学習方略」を育むため、授業改善や家庭との連携を推進していきます。